

◎特集1

子どもの育ちを みんなで応援しよう！ 人に、地域に、つながる、つなげる。

子どもたちが本来持っている「のびのび」や「いきいき」といった子どもらしさが失われつつあるともいわれます。少子化や核家族化が進み、家庭環境や社会環境が変化するなか、家族同士や地域とのつながりの希薄化、さらには子どもが巻き込まれる犯罪の発生なども影響しているのでしょうか。

やさしく、たくましい心の育ちには、人との関わりが大切であり、関わりなくして「輝く子どもの育成」は望めません。市では、地域ボランティアの見守りや参画など、条件の整った学校から「放課後子どもの居場所づくり」を先行実施。今月はモデル校の取り組みを紹介します。

学校では体験できない学び、異年齢の子ども同士、地域の大人との遊び、ふれあいなどの機会が強く求められています。一緒に遊ぶこと、安全を確保すること、遊び場の整備をすること、技術や知恵や遊びを伝えること……ムリのない範囲で構いません。子どもたちの育ちを支える取り組みに、みんなで参加していきましょう。

「放課後子ども居場所づくり」推進中！！



市教育委員会
社会教育指導員
小松 憲三郎

子どもは遊びの天才。遊びながら自然にルールを身につけ、創造力や自主性を培い、成長していきます。子どもたちの好奇心を大切に、その経験や感動がいつそ豊富なものになるよう、自然とふれあい、学び、遊び、体験し、交流しながら、自由に過ごすことができる安心の居場所を作ろうというのが、「放課後子ども居場所づくり」のねらいです。市では、子どもが「生きる力」を身につけることを支え助けるため、地域の人材を掘り起こし、市民総参加による子育ての実現をめざしており、そのことが地域の活性化へもつながると考えています。実践にあたっては、モデル校のノウハウを、それぞれの学校や地域の実情に照らし合わせながら、全市へと広げ、取り組みの充実を図っていきます。子どもたちとともに活動し、子どもたちに伝えることや教えることができること、あるいは安全を守るなど、ぜひお力をお貸しください。

問合せ ● 生涯学習課（内線1232）

川岸小「とちっ子ひろば」

年間25回(月に2回程度)開設



太鼓教室



シュシュづくり

読み聞かせ



英語であそぼう



参加児童の声

(昨年の教室に対してのアンケート)

- ★体育館で、いろんな遊びをみんなできて楽しかった。
- ★手品は、みんなの前で発表できてうれしかった。うちに帰ってからもできた。
- ★料理教室がとてよかった。作るのがおもしろかったし、おいしかった。

スタッフの確保と配置、児童の出欠の把握、緊急時の対応など当日の運営はもちろん、準備、事務処理、保険の加入、保護者へのお便りの発行など、安心・安全な居場所の確保と提供に、学校と連携して取り組んでいます。しっかりとした組織ができたことが大きいですね。息切れせずに続けていける手応えが感じられるようになりました。子どもたちとの交流を、スタッフも楽しんでいきます。「とちっ子ひろば」は、大人にとっても気づきや学びの場となり、地域再生の原動力にもつながると思います。



川岸小学校放課後子ども教室運営委員会事務局長
海沼 貞夫さん

川岸小学校放課後子ども教室は、ともそだちボランティア連絡会(地域住民)を中心に、関係者(学校、PTA、行政)が協力して運営委員会を組織。昨年、試行期間を設け、参加した子どもの声、保護者の声、ボランティアの声を集めて、今年の内容を計画。募集により「とちっ子ひろば」の愛称も決定し、本格的な通年開設が実現しました。校庭、体育館でのフリーな遊び、宿題や読書のための図書館解放のほか、都度太鼓・腹話術・手品・手芸などの教室が予定されているのが特徴。夏休み中の7回の予定のなかには、盆踊り講習や動物とのふれあい、料理作り、コインの研究なども盛り込まれています。



7月7日、サッカー教室を開催

参加児童の声

- ★サッカーがうまくなれたらいいなと思い、初めてあやめ基地に参加しました。
- ★あやめ基地にはずっと出ているけれど、きょうはサッカーだったので、朝から楽しみでした。



「あやめ基地」は、校庭、体育館、卓球室、図書館、土曜学童教室を解放して実施。全校児童が対象で、出席カードにより、保護者の了解と児童の参加を確認。場所も遊びも子どもたちが自由に決めることができます。運営スタッフは「あやめ基地応援団」。保護者と学校と地域の連携により組織され、子どもたちの自主的な活動を見守るほか、年2〜3回は講師を招いての講座も企画しています。現在あやめ基地に参加している児童は70、80人ほどで全校生徒の4割といったところ。安全・安心に多くの子どもたちが遊ぶことのできる居場所づくりをめざしています。

田中小「あやめ基地」

5月〜9月(月に1〜3回)開設



出席カードを集めたり、勉強を教えたり…、高学年の児童が低学年の児童の面倒を良くみているとのこと



土曜学童教室では、宿題をしたり、積み木で遊んだり…



以前からある「あやめ基地」の思いを受け継ぎ、昨年実施したアンケート調査の結果から、活動の必要性や内容などを考慮して、田中小の全児童が参加でき、自主的な活動ができるような居場所づくりを進めています。また、地域や保護者の方々に「あやめ基地応援団」として見守りやお手伝いをしていただいています。ですが、できるだけ負担を少なくして、長続きできる活動にしていきたいと思っています。今年は無理な活動を中心に計画しましたが、子どもたちの様子を見ながら内容を検討し、「あやめ基地」のスタイルを作っていきたいと思っています。



あやめ基地運営委員長
林 哉江さん

湊小「あそぼう日」

4月～9月の毎週水曜日に開設

湊小の「あそぼう日」は、小学校の校庭以外に、花岡公園や小坂鎮守神社など開設場所を地域内にいくつか設定し、一度下校し自宅にかばんを置いた子どもが、近くの遊び場に集まって遊ぶというスタイルで実施しています。地域の子どもを地域で育てようという意識のもと、区(花岡と小坂)が大きな役割を果たしているのが特徴で、運営は、各区から選出されたコーディネーターを中心に、ボランティア、保護者、学校、行政がサポート。外で元気に自由に遊ぶ見守りを行っています。遊びは異年齢交流を主眼とし、集団登校のグループなどで縦のつながりの強化を図っています。



参加児童の声

- ★遊びに来るようになってから、水曜日が楽しみに。
- ★キャッチボールやままごとをして遊びました。
- ★水曜日以外にも、みんなでここで遊ぶようになってきた。

マレットゴルフ教室

参加児童の声

- ★初めてのマレットゴルフだったけれど、やり方を教えてもらえたので楽しかった。
- ★思ったようにボールが転がるとうれしい。

保護者の声

- ★毎週楽しんでいるようです。きょうはマレットゴルフをするとのことでしたので、どんな様子か見に来ました。家でゲームをしたりテレビを見るのではなく、こうしてみんなで遊べるのはとてもいいと思います。



小坂区コーディネーター
浜 満恵さん

4、5、6月と自由な遊びの見守りをしてきましたが、缶けり、おにごっこ、だるまさんが転んだなど、子どもたちは、遊びをしっかりと取り戻しているという印象を受けています。豪雨災害以来放置されていた湊湖畔公園のマレットゴルフ場が有志のみなさんによって整備されたこともあり、6月30日にはマレットゴルフ教室も実現。今後は、相撲大会や読み聞かせの会などを予定しています。



花岡区コーディネーター
小口 隆弘さん

孫が11人いますが、近くには住んでいませんので、子どもとの関わりがなく、当初は不安もありました。水曜日は、登校時の「おはよう日」と放課後の「あそぼう日」の日。少しずつ子どもにも顔を覚えてもらい、地域のみなさんにも積極的に参加してもらって、今後は自然のなかの遊びを伝えたり、交流が持てるようになればいいですね。湊公民館には、ボランティアの参加登録用紙を置いてあります。